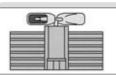
全

住

ュース

防災交通課 **a** 48)1111 (内208)

まちづくり



行政無線情報は電話でも

防災行政無線が聞き取りにくい場合は ■(48)7030 へ問い合わせてください。最新 のメッセージを聞くことができます。

風水害に備え



真剣に土のう積み訓練に取り組む参加者

勢湾台風襲来から五十年という節目 過しました。被災から学んだ経験や 場(阿久比中学校西)で行いました。 訓練」を八月二十三日、 教訓を風化させてはなりません。 伊 伊勢湾台風の被災から半世紀が経 伊勢湾台風五十年阿久比町防災 町多目的広

目的に、 を迎える今年は、これまで以上に〝災 防災訓練を実施しました。 害に強い阿久比町〟を目指すことを 例年よりも規模を拡大した

など総勢約五百五十人が参加しまし 赤十字奉仕団、あいち防災リーダー 訓練には各地区の自主防災会、

町

しました。

ニュアルの作成を目指すことを確認

伊勢湾台風

ティアセンター 立ち上げの運営訓練 み上げていく訓練、災害救援ボラン 班に分けて、伊勢湾台風クラスの豪 じたと想定。 自主防災会や団体を四 東南海地震が連動して発生し、伊勢 などを順番に行っていきました。 雨を体験する訓練、土のうを作り積 湾台風並みの豪雨で河川がはんらん 発生が予想されている東海地震・ 町内で多くの死傷者と被害が生

災会長、 要援護者対策として自主防 防災委員、民生児童委員が



豪雨を体験する参加者

日ごろから防災に対する意識を一人 災害はいつ起こるか分かりません。 は消え去ることはありません。

経験者の記憶から「伊勢湾台風」

備えてください。

ひとりが高めて、

いざというときに

源が何もなく、 中学一年生で、 級生が校舎の屋根に上って瓦を直し 眠れない夜でした」(五十八歳男性) が強くて家族で雨戸を押さえました ていくのか分からず不安でした。 ていたのを記憶しています」(六十二 太い松が家に倒れてきました。 当時 「夜の七時ころから停電して、情報 「畳が宙に浮くほどのすごい風で、 台風が去った後に上 台風がいつ通り過ぎ

なり、 もあの恐ろしい光景は忘れることが りました。 近くで七十人の方が亡く が切れて周りの家がすべて水につか ぶ姿や川に浮かぶ姿を見ました。 「東海市で被災しました。川の堤防 姉と給水の水をもらいにいく途 思い出を聞 犠牲者の遺体がむしろの上に並 同級生も三人犠牲になりまし 今

た。

できません」(五十九歳女性)

行い、今年度中に要援護者対策マ 区での取り組みの発表や意見交換を 集まり、マニュアル作りに向け、

2